

## 海外だより

## 国際社会保障協会 (ISSA) の第18回総会に出席して

健康保険組合連合会社会保障研究室 石本忠義

西欧数カ国を回ったのち、今私は西アフリカの象牙海岸共和国の首都アビジャンにきております。ここアビジャンはもっか国際社会保障協会 (ISSA) 第18回総会が開かれており、世界65カ国とILO、ECなど国際機関から約500名の代表が参加し、盛大に会議が行なわれております。

総会第1日目の全体会議は10月26日午前10時から開かれ、今総会の組織委員会の会長である象牙海岸共和国労働社会大臣 Albert Vannie-Bi-Tra 氏が議長に指名されました。午前中関係者のメッセージがあったのち、午後から「社会保障の発展と動向 (1970—1972年)」がソ連邦社会保障省の代表から報告され、またメキシコ、ソ連邦、インド、アメリカ、ザ

ンビア、スペイン、ルーマニアおよびハンガリーの社会保障機関の代表からそれぞれの国の最近の状況が報告されました。そして最後にISSAの各地域委員会 (ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ) の最近の活動状況が各地域委員会の代表から報告されました。第1日目は報告のみに終り、全く討論は行なわれませんでした。

開催地であるここアビジャンは高温多湿で、日本の真夏によく似ています。10月28日の日曜日、会議はなく1日全員で山丘地方へピクニックに出かけましたが、当日の気温が最高40度でした。インドやイランなどからも参加者がいますが、これらの人たちも「暑い暑い」を連発しているほどでした。しか

し、会場にあてられた Hotel Ivoire はフランスやアメリカの資本を導入して整備された象牙海岸の誇る立派な設備をもつホテルです。主要な会議の行なわれる会議場はよく国際会議に使われるそうで、きわめてよくできています。会議の公用語としては英語、仏語、独語、スペイン語およびロシア語の5カ国語が使われています。報告や討論はすべてこれら5カ国語に同時通訳されますが、仏語を用いる参加者が圧倒的に多く、われわれ英語に頼るしかない者はいつもレシーバーをはずすことができません。

第2日目は、共済組合、家族当および社会保障法制の各常任委員会が開かれ、第3日目の10月29日は医療・疾病保険、業務災害・職業病保険および数理統計の各常任委員会が開かれました。私は医療・疾病保険委員会に出席しましたが、1日中非常に熱心な報告および討論が行なわれました。

同委員会での報告は、昨年 (1972年) 秋ジュネーブで開かれた同委員会での報告を修正または補正したもので、報告テーマはほぼ同じものです。念のため申し上げますと、

- (1) 現物および現金の疾病給付の量と費用  
(1967—70年) (イタリア)
- (2) 予防医療 (疾病・出産保険) の分野における  
社会保障機関の活動 (フランス)
- (3) 薬剤の供給の量と費用 (西ドイツ)
- (4) 疾病保険における医療費の増高の一般的  
原因 (フランス)

の4つです。これらの報告をめぐって各国の代表から数多くの意見や質問が出され、かなり充実した会議だったように思います。

今回の ISSA 総会には、日本から河野義男氏 (社会保険庁経理課長)、永場久治氏 (労働省特別雇用対策課長)、野海勝視氏 (健保連企画部長) および私の4名が参加しております。気候と食べ物の関係でやや調子落ちの感がありますが、それでも皆な元気で連日の強行スケジュールをなんとかこなしています。ここアビジャンは気候の関係から正午ごろから午後3時ごろまで官庁および商店が休みになり、ここの人たちは長時間にわたる昼食をとったのち、ゆっくりとからだを休めています。したがって会議もこれにならって午後は3時か

ら始まり、夕方6時すぎまで行なわれます。夕食は通常午後8時ごろから始まり10時ごろに終わります。このペースは初めいささかとまどいでしたが、もうなれました。

第4日目は、業務災害 (前日の続き)、組織・方法および老齢・廃疾・遺族保険の各常任委員会が開かれました。この日の老齢・廃疾・遺族保険委員会では、(1)自営農業者の年金保険 (オーストリア)、(2)農業者以外の自営業者の年金保険 (アメリカ) が報告され、これをめぐって活発な討論が行なわれました。そして第5日目は、老齢・廃疾・遺族保険 (前日の続き) と失業保険・雇用維持の各常任委員会が開かれたほか、全体会議がもたれました。この日の老齢・廃疾・遺族委員会では、(1)繰上げ年金、繰下げ年金および就業継続の老齢年金への影響 (西ドイツ)、(2)廃疾・老齢・死亡のリスクに対する完全な社会的保護が報告されました。また、全体会議では各常設委員会の代表による総括報告が行なわれました。

第6日目の11月1日には、職業危険防止委員会とリハビリテーション研究会が開かれたほか、全体会議が行なわれました。この日の

全体会議は、ISSA の規約の改正をとりあげ、これについて討議するとともに、前日に引き続き各種委員会の代表による報告を聞きました。そして、第7日目の11月2日には、全体会議がもたれ、前日に引き続き規約改正の審議と各種委員会の代表による総括報告が行なわれました。

10月26日から始まった ISSA 総会も明日の評議員会および理事会の開催をもって全日程を終ります。評議員会と理事会は今総会の最大のやま場となるでしょう。というのはもっか ISSA は財政窮迫問題と次期事務局長問題とをかかえており、これらの問題をめぐって各国からいろいろな意見が出されると予想されるからです。第1日目の夜、臨時の理事会が開かれましたが、そこでもこれらの問題について活発な意見が出されたようです。要は ISSA が今後よりよく運営されるようにすればよいのですから、あまりやっかいな議論にならないようにと願っています。次期事務局長問題はなかなかむずかしい問題ですすぐには結論はでないと思いますが、財政問題の焦点である分担金の引き上げは結局やむおえない

ものとして認められることになるだろうと予測しています。

地元の新聞 Fraternité-Matin は連日会議の様態を報道しており、最近のアビジャンでの大きな出来事として取り扱っているようです。事実今回の会議に対する象牙海岸の熱の入れようは大変なもので、全面的協力体制をとってきております。貧富の差が著しく1人当たり国民所得は約200ドル(5万円)といわれていますが、アビジャンに関しては非の打ちどころがないほど整備が行なわれており、まずその近代化の点ではアフリカ随一といっても過言ではないでしょう。政情や治安も他の国に比べてきわめて安定しているようで、まずわれわれの行動にさほど支障はきたしてありません。

今回の会議に出席して得たことは、(1)多くの人が社会保障に熱心に取り組んでいるということを確認したこと、(2)この会議を通して共通の問題を国境を越えて話し合い、多くの人びとと知合いになれたこと、(3)社会保障の国際的動向と、先進国および発展途上国のそれぞれの問題意識の違いが明確に把握できた

こと、そして(4)アフリカを知ることができたこと、です。さすがアフリカでの開催だけに隣接諸国からの参加者も多く、またこれら参加者からの発言も多かったようです。

このたよりの最後にもう少し開催地アビジャンの印象をお知らせしておきましょう。

象牙海岸共和国の人口は1973年現在約500万人ですが、首都アビジャンにその $\frac{1}{10}$ の約50万人が住んでいます。人口のほとんどは現地人ですが、ヨーロッパ人も約1万人います。日本大使館の話によりますと、日本人は100人ぐらいとのこと。日本の自動車会社や電機会社が進出しているようで、その関係者がほとんどのようです。

首都アビジャンへの国の投資は大変なもので、地方との差はきわめて大きいという印象です。街のつくりはヨーロッパ風でとくにフランス人好みのものになっています。むしろフランス人がつくった街という印象が強いといっていいいでしょう。20階以上の高層ビルもかなりあり、これがアフリカかという疑問さえ起こさせるぐらいです。あまりにも今まで

アフリカを知らなすぎたと思いました。とくに今回の会場と宿舎にあてられた Hotel Ivoire は広大な敷地に建てられ、500室(6,640人収容)と数多くの附帯施設をもつ有数のホテルで、日本にはまずこのような規模のものはありません。変化に富んだ入江に面して立つこのホテルからは、全くすばらしい眺望ができます。とくにこのホテルを中心にした地域の環境が整備されており、道路等もきれいにつくられています。将来ここアビジャンをアフリカのリビエラとしてつくり上げていく計画が立てられており、もっか着々とその計画が進められているようです。ホテルも多く、ヨーロッパ人のための観光地という感じを免れないのですが、象牙海岸はまだ農業国であり、人口の80%は農業に従事しています。主要産物はコーヒー、カカオ、バナナ、綿、米などです。米の生産量はかなりなもので、今までに何度か口にしながらはるか日本をしのんでいます。象牙海岸の名が示すとおり、土産品は主として象牙細工です。しかし、価格は決して安くありません。果実物は大変おいしく、いろんな種類が豊富にありま

す。ただ物価が高く生活はしにくいようです。また、ここの名物は伝統的な踊りです。

ところで象牙海岸の社会保障制度ですが、もっか整備中で、現在家族給付制度、業務災害・職業病制度および退職金制度があるだけです。これらの制度は全国社会福祉金庫によって運営されています。これらの制度は主としてサラリーマンを対象としています。全国社会福祉金庫は立派な建物です。このほか病院や社会福祉施設もいくつかつくられています。最終日の11月3日には参加者全員で全国社会福祉金庫、社会福祉センターおよび産院を視察することになっています。

短い期間でしたが、アビジャンでの ISSA 総会に出席して大変貴重な経験をしました。

なお、付記しておきますが、ISSA 総会の前にヨーロッパ数カ国を回ったときの印象記は他の機会にまたご披露したいと思います。

—1973年11月2日、アビジャンにて—

### 社会保障こぼれ話

#### 労働者の福祉測定

(アメリカ)

労働力の状況を示す統計として、雇用と失業の統計がよく用いられ、雇用や失業の概念が発達するとともに、統計にも各種の発達が遂げられてきた。しかし、近年の労働市場では、たとえば、働らく主婦の増加、余裕のある所得や資産の増大、所得移転制度の発達、およびその他の諸諸要素が現われ、これらは失業と本当のニーズとの間における相互関係を次第に減少させてきた。また、あるグループに見うけられる強制的な稼働減少の存在は、完全な稼働を求められている貧困な労働者の直面する諸問題への社会的な関心を少なくしてしまうかも知れないし、しかも、労働統計は前者に焦点を絞っており、後者をほとんど無視している。不遇な労働者や労働の経験を示す資料のような詳細な労働統計は、重大な諸問題の存在することを示しているが、これら多種多様な資料を総合的に取扱ったり、解釈することは困難である。労働力活動にかんする現在の測定を、労働者の福祉という単一の指標に結びつけて合せることが試みられている。その試みでは、従来半雇用状態にある就労について概念を作り上げたり、

また、別々な労働市場統計を合せることにより、適切な賃金を支払われて稼働活動に従事する者と、競争の困難な状況の人びとの状態を測定しようとしている。

収入や雇用の適切性を測定するために、ある指標が用いられるが、その指数は次のような各種の判断基準に該当するものでなければならぬ。

- 1 その指標は収入の最低基準をはっきり示すものでなければならないし、また、それらの最低基準は、低賃金がしばしば間欠的な雇用と結びついている事実を考慮しなければならない。これはある特定の観察された週よりも、より長い期間における所得の流れを示す資料が要求される。
- 2 労働市場における格差が、ある社会的に容認された妥当な生活水準に危険な影響を与えない人びとを除外するために、扶養家族および関連をもたない人びとに対して、最高の基準が規定されなければならない。
- 3 扶養家族を可変的な経済単位とみなして世帯の所得がある妥当な生活水準として、要求された水準を超過する第2次の稼働従事者の雇用問題は除かなければならない。反対に、所得が上述した水準に(次頁へつづく)